

登録コード	UAF17500	開講年度	2026					
授業題目	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関					担当教員	川崎 隆	
						副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・3時限			
				授業形態	講義			
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】			
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学							
	【研究科共通】自身の専門分野における高度な知識と技能を有する。				専門学問分野における知識・技能を備え、それらを活用できる。			
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学							
	【心理・長野臨床以外】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				専門学問分野における知識・技能を備え、それらを活用できる。			
	【心理・長野臨床以外】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				専門学問分野における知識・技能を備え、それらを活用できる。			
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学							
	【心理・長野臨床】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				専門学問分野における知識・技能を備え、それらを活用できる。			
	【心理・長野臨床】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				専門学問分野における知識・技能を備え、それらを活用できる。			
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学							
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				専門学問分野における知識・技能を備え、それらを活用できる。			
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				専門学問分野における知識・技能を備え、それらを活用できる。			
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				専門学問分野における知識・技能を備え、それらを活用できる。			
	(2)授業の概要	本授業では、家族、集団、地域社会（コミュニティ）の観点から臨床心理学的支援を学ぶ。家族、集団、地域社会（コミュニティ）の共通項は、人と人の関係性や集団の力を見立て、それに則って援助を行う点にある。クライアントを支援するにあたって、クライアントを取り巻く家族、集団、地域社会（コミュニティ）を理解し、人とその環境双方を見立て働きかける方法を学んでいく。なお、授業もまた、関係性、集団の力が働く場である。本授業では、講義にくわえて、問いに対するディスカッション、ペアワーク、グループワークを多用し、受講者、教員が、相互に影響を及ぼし合う関係の中で、集団力動の魅力を感じ、学びを深めていく。						
	(3)授業計画	第1回：ガイダンス／家族をテーマにした自己理解 第2回：家族療法の基礎理論と概念 第3回：家族療法とナラティブ 第4回：事例論文検討1 第5回：事例論文検討2 第6回：集団心理学／多様性／文化的自己理解 第7回：集団精神療法の模擬的実践 第8回：事例論文検討3 第9回：事例論文検討4 第10回：コミュニティ心理学の基礎的理解 第11回：コミュニティ援助の模擬的実践1 第12回：コミュニティ援助の模擬的実践2 第13回：コミュニティ援助の模擬的実践3 第14回：振り返り 期末試験：無 期末レポート：有 ＊授業最終回に授業アンケートを実施します						
(4)成績評価の方法	資料作成等での授業の事前準備（30%） 授業中のディスカッションへの参加(20%) 毎回のレスポンスレポート（10%） 最終課題(40%)							
(5)成績評価の基準	（ ）担当部分の資料作成等での授業の事前準備 （ ）授業中のディスカッションへの積極的な参加 （ ）事前資料へのコメント・授業後の振り返りレポートにおける授業内容の理解度 （ ）課題の内容について自身の体験と照らし合わせて検討することができたか 上記のうち4項目すべてを満たしていれば「卓越している」という評価を与える。3項目を満たしていれば「かなり上にある」、2項目を満たしていれば「やや上にある」、1項目を満たしていれば「水準にある」と評価する。 得点率による評価基準は次のとおりとする。							

(5)成績評価の基準	90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可
(6)事前事後学習の内容	【事前学習】 ・各時間のテーマに従い、担当を決める。 ・授業担当者は、参考文献・関連論文・資料等を用いて、講義資料を作成する。講義の中には、参加者の理解を深めるためのワーク（個人・グループ）を1つ以上準備し、授業資料と関連資料を事前にeAlps（フォーラム）上にあげる。 ・授業担当者以外は、eAlps（フォーラム）にあげられた資料を熟読する。 【事後学習】 ・講義およびワークを通して、印象に残った点や疑問点等を、レスポンス・レポートとして授業翌日までにeAlps（フォーラム）に記述する。
(7)履修上の注意	・授業で紹介される事例について、授業外で口外しないこと。守秘義務を意識すること。 ・自習に時間を割くことを苦にしない学生の受講を求める。 ・障害による修学上の困難がある方は授業開始前に相談してください。
(8)質問,相談への対応	川崎隆研究室（東校舎4階 E407） TEL:026-238-***
【教科書】	指定しない
【参考書】	中釜洋子著『家族のための心理援助』金剛出版、2008年、ISBN：978-4772410274 安田節之著『プログラム評価—対人・コミュニティ援助の質を高めるために—』新曜社、2011年、ISBN：978-4788512337 Yalom, I. D., & Leszcz, M. 『The Theory and Practice of Group Psychotherapy 6th ed.』New York: Basic Books.、2020年、ISBN：978-1541617575